【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和6年12月17日(2024.12.17)

【公開番号】特開2024-37063(P2024-37063A)
【公開日】令和6年3月18日(2024.3.18)
【年通号数】公開公報(特許)2024-050
【出願番号】特願2022-141707(P2022-141707)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｋ 87/08(2006.01)
Ａ０１Ｋ 87/06(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｋ 87/08 Ｂ
Ａ０１Ｋ 87/06 Ｂ

【手続補正書】
【提出日】令和6年12月9日(2024.12.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】
次に、図２、３を参照して、リールシート本体１２及びリールシート９の基本的構成につき説明する。図２（ａ）は、本発明の一実施形態に係るリールシートの断面図（リールシートの中心軸を通る図２（ａ）の紙面の上下方向の断面図）を示し、図２（ｂ）は、本発明の一実施形態に係るリールシートの正面図を示すものである。以下の説明において、軸方向（前後方向）及び上下方向は、図２（ａ）で示した方向を意味し、左右方向（サイド方向）は、図２（ａ）の紙面と直交する方向を意味する。すなわち、前方は釣竿の穂先側、後方は基端側を意味し、上方は、両軸受けリールを装着した際、元竿杆（竿杆）の軸心Ｘに対してリール側、下方は、その反対側を意味する。該軸心Ｘは、リールシート９、リールシート本体１２、リール脚載置部１２ａ、筒状部４の軸心にも対応し、これらの方向をこれらのいずれかの軸方向と呼ぶことができる。図３（ａ）は、本発明の一実施形態に係るリールシートのリールシート本体の構造を示すものであり、図３（ｂ）は、本発明の一実施形態に係るリールシートのスペーサ部材の構造を示すものであり、図３（ｃ）は、本発明の一実施形態に係るリールシートのナット部材の構造を示すものであり、図３（ｄ）は、本発明の一実施形態に係るリールシートのグリップ部の構造を示すものである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
該移動フード１３の係合部１６の雄ネジ部は、筒状部４の内側に設けられたナット部材１８の内面に形成された被係合部１８ｂに形成された雌ネジ部と螺合するようにされる。すなわち、ナット部材１８の操作部１８ａを一方向に回転操作することで、移動フード１３は軸方向前方側に移動してリール脚６ａの後端側を締め付け（リールの装着、固定状態）、ナット部材１８を他方向に回転操作することで、移動フード１３は軸方向後方側に移動して、リール脚６ａの後端側を開放する（リールの取り外し状態）。ここで、係合部１６と被係合部１８ｂとの係合方法は、従来公知の様々な方法が考えられ、特定の態様（螺

合）に限定されるものではない。なお、操作部１８ａの後端側には、ストッパ部材２０を設けることで、操作部１８ａが後方側に抜けないように規制することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５８】
該移動フード１３の係合部１６の雄ネジ部は、筒状部４の内側に設けられたナット部材１８の内面に形成された被係合部１８ｂに形成された雌ネジ部と螺合するようにされる。すなわち、ナット部材１８の操作部１８ａを一方向に回転操作することで、移動フード１３は軸方向前方側に移動してリール脚６ａの後端側を締め付け（リールの装着、固定状態）、ナット部材１８を他方向に回転操作することで、移動フード１３は軸方向後方側に移動して、リール脚６ａの後端側を開放する（リールの取り外し状態）。ここで、係合部１６と被係合部１８ｂとの係合方法は、従来公知の様々な方法が考えられ、特定の態様（螺合）に限定されるものではない。なお、操作部１８ａの後端側には、ストッパ部材２０を設けることで、操作部１８ａが後方側に抜けないように規制することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６３】
ここで、本発明の一実施形態に係るリールシート９において、該リールシート本体１２は炭素繊維強化プラスチック（ＣＦＲＰ）、ガラス強化プラスチック（ＧＦＲＰ）、Ａｌ又はＭｇにより形成することができる。また、該リールシート本体１２の材料として、ＧＦＲＴＰ（連続繊維）、ＧＦＲＴＰ（不連続繊維）、ＣＦＲＴＰ（連続繊維）、ＣＦＲＴＰ（不連続繊維）又はハイブリッドで形成するようにしてもよい。このような材料で形成することで、十分な剛性や強度を確保しつつ重量の増大を抑制することができる。